


導入背景
目的

「一部の得意な人」から「全員」へ
組織文化の変容と業務効率化

① 導入段階の取組

～ 対話と研修のハイブリットによる利用促進 ～



●対話と研修
生成AIを利用したことがある教員が数名という状況でスタートしました。そんな中で、教員間の日常会話で「生成AI活用の意義」を浸透させることを試みました。さらに、外部講師による全5回の専門研修を実施し、生成AIに対する理解を深める取組を行いました。

●1人1事例！
「まずは触ってみる」ことを重視し、校内で「1人1事例」の実践を推進しました。得意な先生が中心になって不安や疑問をその場で解消する体制を作ることで、組織全体の生成AI活用スキルを底上げしました。

▲生成AIの職員研修の様子

③ 成果検証

～ 活用者数名からの出発
全教員が取り組む組織風土が醸成～

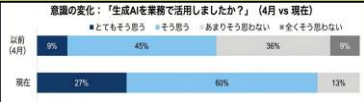
活用効果

～業務効率と
質の向上～

教員の声

～「時間」と「心」
に生まれた余裕～

●日常的な定着
教職員の8割が週1回以上活用しており、活用したことのない教員は0%となった。



活用状況	以前(4月)	現在
頻りに活用する	9%	27%
時々活用する	40%	60%
活用しない	38%	13%
わからない	13%	0%

●肯定的評価
活用への肯定感が54%→87%へ急増。組織全体の業務効率と成果物の質が底上げされた。

●アイデアの拡張
授業の導入ネタや道徳教材の案を生成AIを用いて作成することで、授業の質が向上した。

・苦手な事務作業をサポートしてもらうことで、効率よく仕事ができました。

・生まれた時間の余裕を授業準備に充てられ、仕事の質が全体的に向上しました。


取組の課題と改善点

専門研修を経て、全教職員のプロンプトを作成するスキルの底上げはできたが、スキルに個人差がある。そのスキルの差を埋めるため、成功事例の共有と、コピー＆ペーストですぐ使える「型」の蓄積を進める。

② 運用段階の取組

～ 授業・校務・分析の全方位で進めるAI活用～


文書作成
【各種文書のたたき台作成】
学級休業をお知らせするためのメール文案の作成をはじめ、各種保護者向け連絡や依頼文のたたき台作成を行った。



～活用者の声～
・保護者連絡の文面の言葉遣いに間違いがないか、言葉の選び方は適切かなど、不安に思うことがあったが、生成AIを活用することで、不安や負担が軽減された。

・自分では思いつかなかった言葉の選び方が参考になった。


情報分析
【アンケート結果の集約】
Microsoft Formsで行ったアンケート結果を生成AIに読み込ませ、その分析を行った。



～活用者の声～
・これまでデータ分析は一部の得意な先生の仕事だと思っていましたが、まるでAIアシスタントに話しかける感覚でグラフが作れるので、苦手意識が減りました。客観的なデータに基づいて学級の状態を把握し、指導計画を立てられるので、自分の実践の改善点が見えるようになりました。


・客観的に要点をまとめてくれるので、感覚ではなく事実に基づいて議論ができ、会議の質も向上しました。

教材作成【学習アプリの作成】
授業や宿題などで活用できるWEBアプリを開発した。



～活用者の声～
問題の作成には時間がほとんどかからず、他の作業をしている間に作成していくことができるので、とても効率が良かったです。

資料分析・資料作成
【グランドデザインの可視化】
本校のグランドデザインをNotebookLMに読み込ませ、インフォグラフィックを生成した。生成したものは外部への資料として提供できるほど質の高いものだった。



～活用者の声～
・わかりにくい資料がとてもわかりやすくデザインされ驚いた。他の資料でも活用したいと思う。

・大変面白い機能だと思いましたが、できあがったデザインに再現性がないのは留意しておくべき点だと感じました。